

平成26年度の尾原ダムにおける アオコの発生状況

尾原ダムにおけるアオコの発生状況<発生状況>

- 平成26年9月24日に尾原ダムで初めてアオコの発生を確認した。
- 発生後、目視による監視を毎日（平日）行っている。
- 植物プランクトン、水質調査を9月24日、26日に実施した。
- アオコは藍藻類であるミクロキスティス (*Microcystis*) が優占している。
- 「淡水赤潮」となる渦鞭毛藻の*Ceratium hirundinella* (ケラチウム) も同時に発生している。
- アオコレベルはレベル3まで上昇した。湖面の上流側ほどレベルが高い傾向がみられている。
- 尾原ダム下流では、アオコは確認されていない。また、下流の水利用への支障も確認されていない。

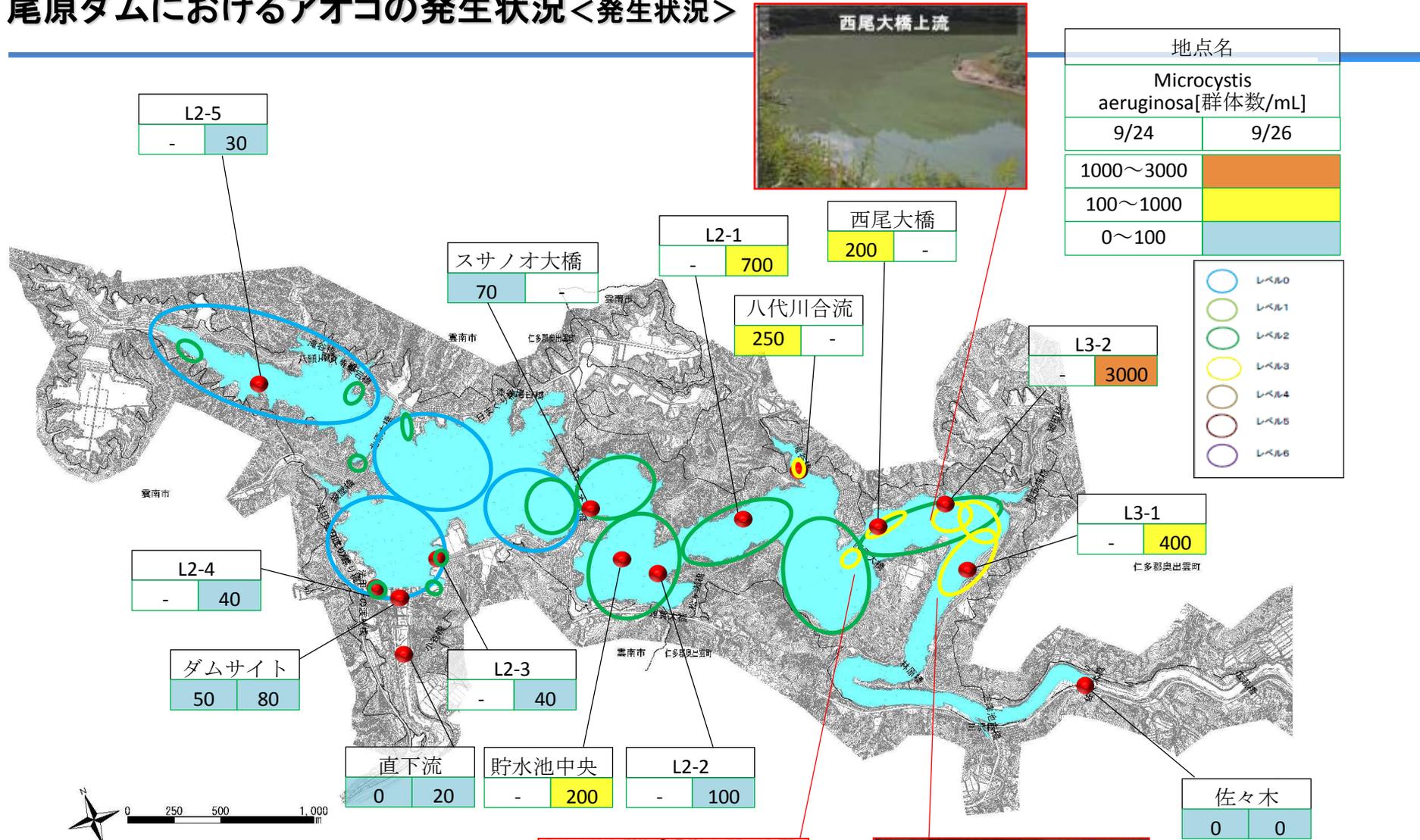


スサノオ大橋下流(9/29)



林原橋下流(9/29)

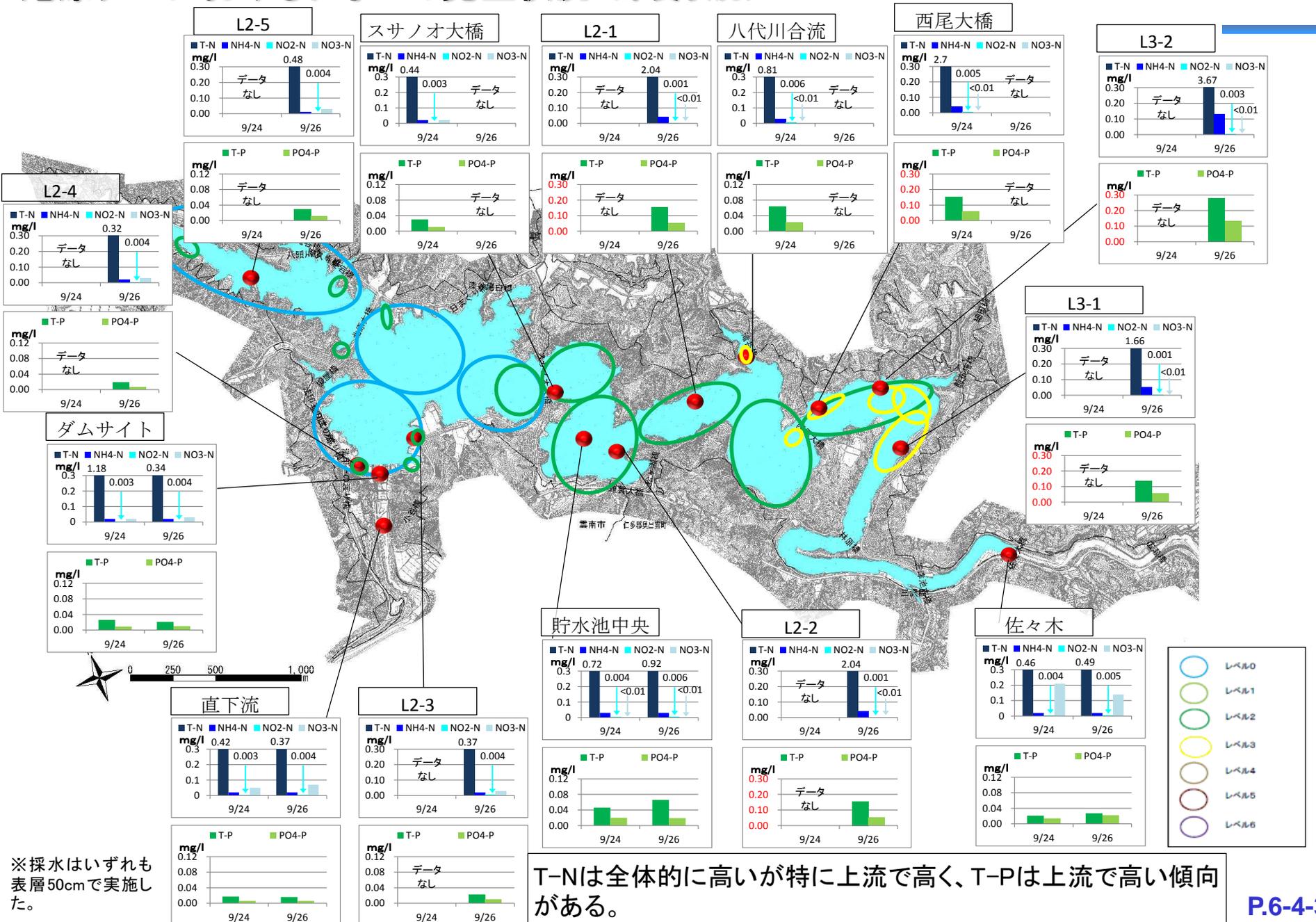
尾原ダムにおけるアオコの発生状況<発生状況>



アオコレベルは9/29の観測結果

上流ほど濃度が高い傾向にある。

尾原ダムにおけるアオコの発生状況<水質状況>

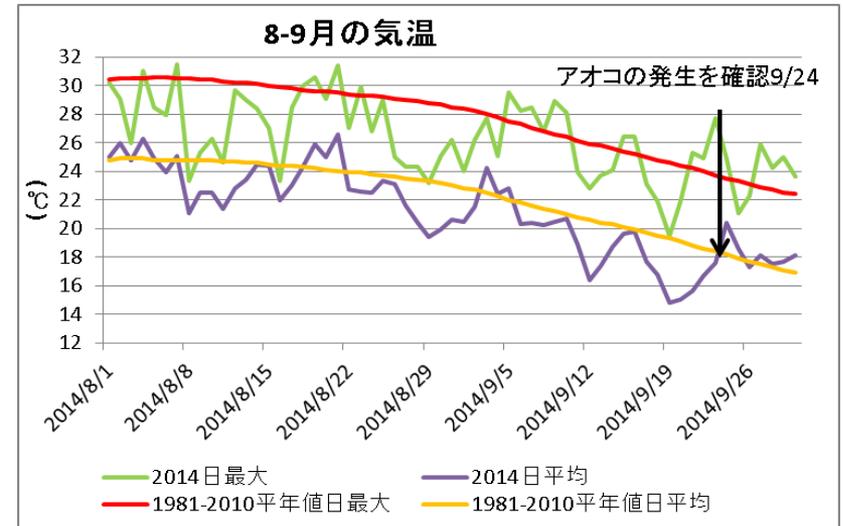
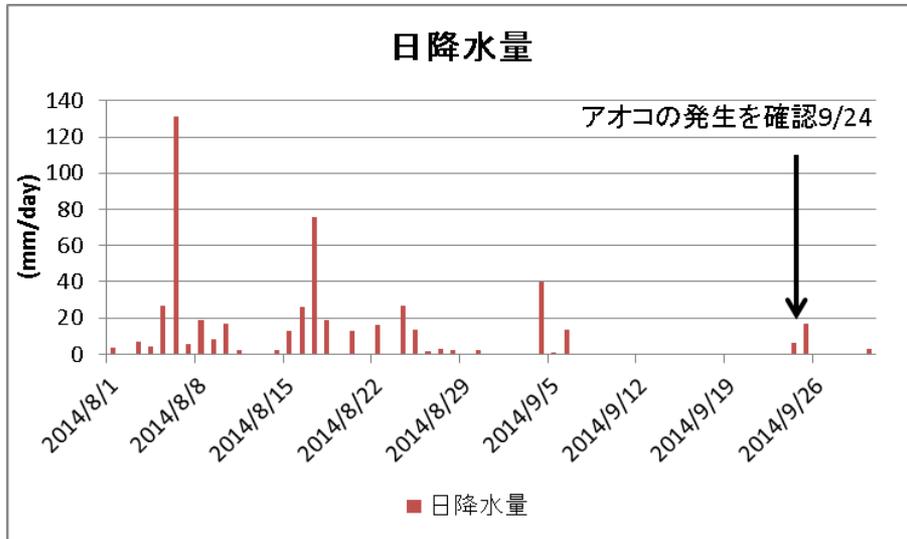
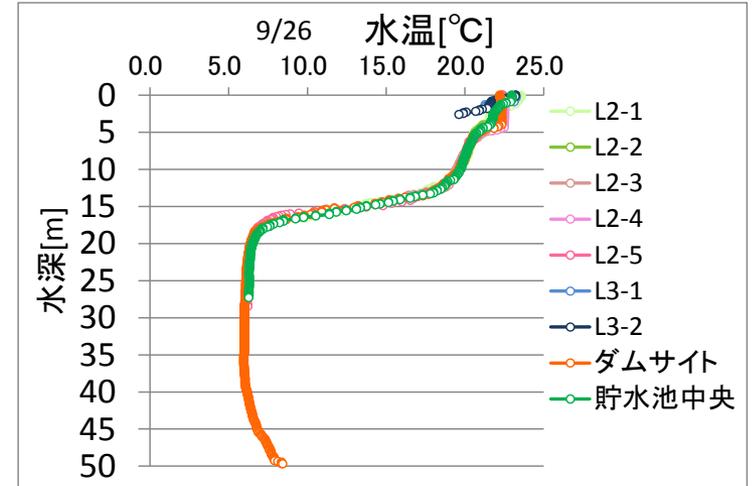


尾原ダムにおけるアオコの発生要因推定

- アオコ発生前には2週間以上降雨が無い状況が連続していた。
- アオコ発生の直前には最高気温が27.7℃（横田観測所）まで上昇し、平年値を大きく越えていた。
- 9/24の降雨で上流より栄養塩類が供給された。
- 冷たい流入水は湖底に流入し、水深の浅いL3-1、L3-2では、供給された冷たくて高い濃度の窒素およびリンが日光の当たる表層に供給された。



- これらの要因で上流側でアオコが発生した可能性がある。



アオコの発生状況<評価と方針>

評価	<ul style="list-style-type: none">• 尾原ダムでは平成26年9月24日にアオコが初めて確認され、その優占種はミクロキスティスであった。アオコレベルは最大で3であり、貯水池上流ほどレベルが高くなる傾向がある。• 発生前に2週間降雨がない状況が続き、気温も平年値を大きく越えていた。• ダムサイトや貯水池中央に比べて、貯水池上流側でT-NおよびT-Pの濃度が高かった。• 9/24の降雨により供給された冷たくて高い濃度の窒素およびリンが底層部に流入して、水深の浅い貯水池上流側では、それらが日光の当たる表層に供給されたことが、アオコ発生要因の一つと考えられる。• 下流河川ではアオコの発生による被害は確認されていない。
今後の方針	 <ul style="list-style-type: none">• アオコの発生又はそのレベルが上昇すると、ダム貯水池では景観の悪化・悪臭発生などのダム利用上の支障が出る可能性がある。• これまで水質調査を行わなかった貯水池上流側でアオコの発生と高い濃度のT-NおよびT-Pを観測していることから、水質調査地点の追加を検討する。• アオコが発生するメカニズムを検証し、アオコによる影響等について必要に応じて対応策などを検討する。